

## 人間中心の工業デザインを知ろう

日時：令和5年8月23日（水）13：30～16：00

場所：千葉大学工学部2号棟103教室

参加者：16名

講師：千葉大学工学院工学研究院 下村義弘先生



人間工学に基づいたデザインについて考えてみましょう。



手術用のはさみと普通のはさみのデザインの違い



醤油差しは注ぐときに手首に負担がかからないデザインになっています。



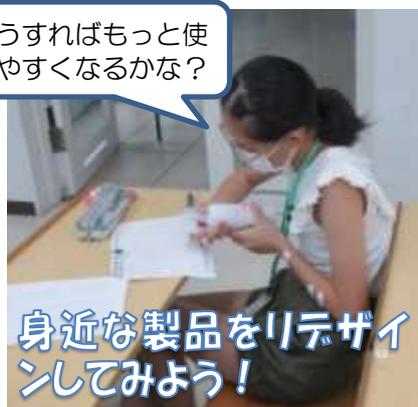
手そのもののつくり



持ち手を工夫することで手にかかる負担が変わります。



筋電図で体にかかっている負担を測定しています。



どうすればもっと使いやすくなるかな？

身近な製品をリデザインしてみよう！



人間と物をつなぐ学問が人間工学です。

### 【受講生の感想】

- 身近なもので自然と使っている物でも、もっと使いやすくなったり、実は使いづらいものがあったりすることに驚きました。人間と物をつなげる部分をよりよくしていく研究をするのはとてもやりがいがあるだろうなと感じました。私も身近なものをもっと便利に使いやすくてできないか考えてみたいです。
- 自分の無意識のうちに感じている負担を測定し、そのデータを基に自分の身の周りのものをリデザインするのは新しい試みだったのでとても興味深かったです。自分の考えたアイデアでもまだまだ不完全だと思うので、時間がある時に、今日考えたデザインを再考してみたいと思います。新しい自分だけのアイデアを考えるのはとても面白かったです。
- 「デザイン」と言ったら「カッコよさ」や「かわいさ」ばかりを意識するものだと思っていました。今日の講座で「使いやすさ」がとても大切ということがよくわかりました。これからは「使いやすさ」についてよく考えていきたいです。
- リデザインをするのは普段とは違った視点からものを見るきっかけになり面白かったです。また、筋電図の測定も印象に残りました。実際に自分の手を動かして、それが波形として見ることで、ものを使う時にかかる負担が可視化できるのはすごいと思いました。
- 身近なところから、わかりやすく丁寧に説明していただき、楽しく講義を受けることができました。手の仕組みと製品の仕組みを一緒に考えないといけないということを初めて知りました。将来このような研究をするのも楽しそうだなと思いました。
- 科学的にデータを取って改善点を見つけて、解決していくというのがおもしろいと思いました。また、自分の立場だけだと分からないこと（他の人のために考えること）が「デザイン」では重要だとわかりました。